

# 中国人日本語学習者の言語学習観の調査

## — 中央民族大学外国語学院日語専業の場合 —

関崎 博紀

### 要 旨

本研究は、中国北京市にある中央民族大学の外国語学院日語専業に在籍する学習者を対象として、その言語学習観を調査した。目的は、学年による学習観の異同を明らかにすることと、先行研究による結果を再検討することである。また、学習に対する自律性を明らかにすることも目指した。

アンケート調査の結果、学習者が語彙の学習を重視する傾向は学年と反比例し、文法を重視する傾向は学年と比例することが明らかになった。また、先行研究と一致する結果として、発音を重視する傾向が、学年によらず見られることも明らかになった。一方で、先行研究とは一致しない結果も見られた。学習者は自ら新しいことに挑戦し、問題に対する解決方法を探すことを好むなど、自律的に学習に取り組もうとする姿勢を持っていることなどである。本稿では、調査の結果から、日本語の指導の際に検討すべき事柄を考察した。

【キーワード】 ビリーフ 言語学習観 中国人日本語学習者 BALLI

## A Survey on the Beliefs of Chinese Learners regarding Japanese Language Learning: in the case of Central University for Nationalities

SEKIZAKI Hironori

【Abstract】 This study is a survey on the beliefs of Chinese students who are learning Japanese. Its purpose is two-fold. First, to reveal the similarities and differences between students who belong to different grades, and second, to re-examine the results of previous studies. Students' autonomy was also investigated.

The results show that learners' tendency to attach importance to learn vocabulary is in proportion to their grades, but contrastively that of grammar is in inverse ratio to their grades. Some learners' beliefs of learners are similar to those found in previous researches, for example the tendency to attach importance to pronunciation regardless of their grade. On the other hand, some beliefs differ from the results of former studies, for instance learners' strong autonomy. Ways of applying the results to the teaching of Japanese are also discussed.

【Keywords】 Beliefs, Chinese learners of Japanese, BALLI

## 1. はじめに

学習者に適した教授法、カリキュラムを確立することは、学習の効果を高める上で不可欠である。Horwitz (1987) によってビリーフ (belief) と学習者のストラテジーとの関係が指摘されて以来、最適な教授法作成への示唆を求めて多くの研究がなされてきた。このうち、中国人日本語学習者の抱くビリーフを明らかにしたものには、板井 (1997) や板井 (1999)、尹 (2001) などが挙げられる。これらの結果から、中国人日本語学習者が抱くビリーフの共通した傾向が明らかにされている。しかし、一方で、異なる傾向も示されている。これには、調査地点や学習者の所属機関の違いなどが影響していると考えられる。さらに、中国人日本語学習者の、学習上の自律性に関して調査したものは、筆者の調べた限り見当たらない。

本研究では、中国北京市にある中央民族大学外国語学院日本語専攻<sup>1</sup>において実施したビリーフ調査の結果を提示する。各学年の学習者のビリーフを比較し、学年による異同を検討する。また、先行研究において示された傾向との異同を示す。そして、それらを分析することによって得られた知見が日本語教育に示唆することを論じる。

## 2. 中国人の言語学習観に関する先行研究

BALLI (The Beliefs About Language Learning Inventory) と呼ばれるツールを利用して中国人の言語学習観を調査した研究には、板井 (1997)、板井 (1999)、尹 (2001) などがある。BALLI は Horwitz が開発したもので、「言語学習上の様々な問題に関する学習者の意見を測るのに用いる」(Horwitz 1987: 120) ツールである。以下のような質問に関して、学習者から5段階評定などによる回答を得て、その学習観を探るものである。

・ I have a special ability for learning foreign language.

(私には外国語学習の特別な才能がある)

板井 (1997) は、中国人学習者の言語学習観を把握する目的で、上海の復旦大学日本語科の学生を対象に調査を実施している。その結果、語学学習の動機について、「学習者は日本語が上手になりたいという明確な動機の他に日本人の友人がほしい、文化背景を理解したい、話せたら専門や仕事に有利であるという動機を持っている」と報告している (p.77)。また、「外国語学習においては、語彙→文法→翻訳の順に重視する傾向が強かった」とも述べている (同)。調査結果からは、正確な発音を重視していることも読み取れるが、誤用に関しては寛容だと述べられている (p.71)。学習者の自律性に関しては、学習者の自律的な授業形態を望む傾向があると報告されている (p.75)。

板井 (1999) は、中国人学習者に受け入れられやすい教授法や教室活動を提供するための基礎データを収集する目的で、香港城市大学の商業及び管理学系、国際貿易専攻の学生を対象にアンケートを実施している。その結果、言語学習の性質について、「語彙」、「文法」、

「翻訳の学習」の全てを重視する傾向にあり、中でも文法の学習を重視していると報告している (p.170)。また、教師に多くの役割を期待しており、「教師依存的な結果が出てきた」と述べている (p.171)。

尹 (2001) は、北京にある首都師範大学において日本語専攻の学習者を対象とし、日本語学習者のビリーフを把握する調査を実施している。その結果、言語学習の動機について、「日本語をコミュニケーションや仕事に用いたいという道具的な動機見られる (ママ) が、それほど高いものではない」と分析している (p.122)。また言語学習の性質については、語彙や文法を重視する傾向があると報告している (同)。発音の正確さを厳しく追及しているが、その一方で、正しく話せなくても日本語で話すことに挑戦する姿勢があるとも述べられている (p.121)。

上記の研究において得られた結果には、以下のような共通点が見られる。学習者は、語彙や文法の学習を重視していること、正確な発音を重視していることなどである。一方で、学習の動機に関しては、差異も見られる。これには、尹 (2001) で指摘されているように、出身地や学習環境の違いなどが影響していると考えられる。

### 3. 調査方法

まず、調査表の作成方法について述べる。今回の調査に使用したアンケート作成するに当たって、Horwitz (1987)、Cotterall (1995)、木谷 (1998) を参考にした。

Horwitz (1987) は、教師に学習者が持っているビリーフに更に注意を払わせる目的で、BALLI を用いたアンケートを実施し、結果を分析している。その際、ビリーフを以下の5つの領域に分けている。言語学習の適性／言語学習の難易度／言語学習の本質／学習ストラテジーとコミュニケーションストラテジー／言語学習の動機の5領域である。

Cotterall (1995) は、自律性がもたらす行動や信念の変化に対して、学習者がどのようなレディネスを持っているか調査している。アンケートに因子分析を施した結果抽出された6因子を、それぞれ、教師の役割／フィードバックの役割／学習者の独立性／学習の能力に関する学習者の自信／言語学習の経験／学習のアプローチと名付けている。

木谷 (1998) は、国際交流基金日本語国際センターにおける海外日本語教師研修への示唆を得るため、ロシアの大学生の言語学習観を調査、考察している。木谷は、Horwitz (1987) と Cotterall (1995) の調査で使われた2つのアンケート項目を融合させて45の質問項目に作り直し、調査を行っている。質問項目は、以下の5つのグループからなる。教師の役割／学習者の自律性／言語学習の適性／言語学習の本質／言語学習の動機の5つのグループである。

本調査では、木谷 (1998) で利用されたアンケートを主たる参考にした。教師の役割／言語学習の自律性／言語学習の適性／言語学習の本質／言語学習の動機という領域につい

て調査するため、45項目からなるアンケートを作成した<sup>2</sup>。各項目について、5. 強く賛成する、4. 賛成する、3. どちらともいえない、2. 反対する、1. 強く反対する、という5段階評定で記入するように作成した。

対象は、中央民族大学外国語学院日語専業に在籍する学習者69名である。同専業は2004年に新設されており、調査時点では3年生までの学習者が在籍した。アンケートの回収数は以下の表1に示すとおりであった。

表1. アンケート回収数

	3年生	2年生	1年生	合計
回収数	25	22	22	69

調査期間は2006年10月中旬から同11月初頭とした。アンケートを現地に送付し、日本語科の主任に代理での調査の実施を依頼した。記入は授業時間内に各教室において実施し、宿舎へ持ち帰って記入するなどしないよう依頼した。

#### 4. 結果の分析

以下に、アンケートの結果を提示する<sup>3</sup>。結果の分析に当たっては、学年による差が見られた項目はどれか、学年によらず賛成／反対寄りの項目にはどのようなものがあるか、という観点に立つ。

##### 4.1 教師の役割

まず、表2に「教師の役割」についての結果を示す<sup>4</sup>。

学年によらず、「学習で成功するにはいい教師が必要だ」という項目に強く賛成している学習者が多い(4.6、4.1、4.6)。教師に期待する役割として、学習上の困難な点を指摘すること(4.2、4.2、4.2)や、学習の進捗状況を告げること(4.2、4.2、4.2)、何を勉強すべきか教えること(4.0、3.6、3.8)などがある。「定期的なテストを実施することは教師の助けになると分かっている」という項目に強く賛成している(4.5、4.5、4.7)のは、このような期待を表しているのだと考えられる。「学習の目標を教師に決めてもらいたい」、「教師は私をよく勉強するように仕向けるべきだ」という項目に対しては、中間的な反応が見られるにとどまっている。これは、次項で提示する「言語学習の自律性」と関わって表れた結果であると考えられる。



表 2. 「教師の役割」についての結果

	3 年生		2 年生		1 年生	
	平 均	標準 偏差	平 均	標準 偏差	平 均	標準 偏差
定期的なテストを実施することは教師の助けになると分かっている	4.5	0.71	4.5	0.51	4.7	0.57
学習で成功するにはいい教師が必要だ	4.6	0.57	4.1	1.27	4.6	0.91
教師から私の学習上の困難な点は何か教えてもらいたい	4.2	0.82	4.2	1.05	4.2	1.15
教師から私がどの程度進歩しているか教えてもらいたい	4.3	0.74	4.1	0.83	4.1	1.13
何を勉強すべきか教師に教えてもらいたい	4.0	0.89	3.6	1.00	3.8	1.18
学習の目標を教師に決めてもらいたい	2.9	1.00	3.0	1.09	3.1	1.15
教師は私をよく勉強するように仕向けるべきだ	3.2	1.12	3.1	1.04	3.0	1.29
教師は常に、当該の教室活動を行う理由を説明すべきだ	3.2	1.08	2.8	1.22	3.3	1.39
私が当該の活動にどの程度の時間を費やすべきか教師に教えてもらいたい	2.7	0.86	2.8	1.01	2.9	1.17

#### 4.2 言語学習の自律性

続いて、表 3 に「言語学習の自律性」についての結果を示す。「自分で新しいことに挑戦するのが好きだ」という学習者が、学年が上がるにつれて多くなっている（4.5、4.1、4.0）。言語学習上の問題については、「自分のどの部分を改善しなければならないか分かる」（3.9、4.2、4.0）、「自分で解決方法を探すのが好きだ」（3.9、4.2、4.0）という項目に対する賛成の反応は、「教師から手助けを申し出てもらいたい」という項目に対する賛成の反応（3.5、3.7、3.5）よりも強い。ただし、「いつ日本語を間違えたか分かる」という学習者は多くない（3.6、3.1、3.1）。さらに、「自分がどのような進歩を遂げたか、教師に教えてもらわなくても分かる」と解答した学習者は多くない（3.4、3.3、3.1）。これらのことから、学習者は、自身の日本語学習上の問題点について漠然とは把握しているが、具体的な点となると自身では把握しきれていないことが分かる。

表3. 「言語学習の自律性」についての結果

	3年生		2年生		1年生	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
自分で新しいことに挑戦するのが好きだ	4.5	0.59	4.1	0.68	4.0	1.27
自分の問題について自分で解決方法を探するのが好きだ	3.9	0.95	4.2	0.85	4.0	1.02
私はよく自分の日本語のどの部分を改善しなければならないか分かる	3.9	0.73	4.0	0.93	4.0	0.98
教師から手助けを申し出てもらいたい	3.5	1.10	3.7	0.94	3.5	1.26
私は言語をどのように勉強したらよいか知っている	3.4	0.93	3.5	0.80	3.6	1.36
私は自分で書いたものに誤りがないかどうか頻繁に調べる	3.3	0.90	3.1	1.15	3.5	0.96
自分がどのような進歩を遂げたか、教師に教えてもらわなくても分かる	3.4	0.82	3.3	0.65	3.1	1.02
いつ日本語を間違えたか分かる	3.6	0.91	3.1	0.81	3.1	1.04
私は自分がどの程度学習したか自分でチェックする方法を持っている	3.2	0.80	3.0	1.33	2.8	0.96

#### 4.3 言語学習の適性

次に、表4に「言語学習の適性」についての結果を示す。学年によらず、強い賛成の反応が見られたのは、「ある人は外国語学習の特別な才能を持っている」という項目である(4.5、4.6、4.6)。また、「全ての人は外国語が話せるようになる」(3.5、4.2、3.4)「私たちの国の人は外国語学習が得意である」(3.7、3.5、3.7)という項目に関しても、賛成寄りの反応が見られる。これに対して、「私には外国語学習の特別な能力がある」という項目には賛成する反応は見られない(3.1、2.9、3.4)。学年によらず否定的な反応が見られたのは、「数学や科学が得意な人は外国語学習が得意ではない」という項目であった(1.8、1.8、2.1)。

表 4. 「言語学習の適性」についての結果

	3 年生		2 年生		1 年生	
	平 均	標準 偏差	平 均	標準 偏差	平 均	標準 偏差
ある人は外国語習得の特別な才能を持っている	4.5	0.51	4.6	0.50	4.6	0.59
大人より子どもの方が外国語を学習するのはやさしい	3.9	0.81	4.3	1.03	4.4	1.05
全ての人は外国語が話せるようになる	3.5	1.39	4.2	1.15	3.4	1.53
私たちの国の人は外国語学習が得意である	3.7	0.84	3.5	0.67	3.7	0.95
既に1つの外国語をマスターした人は、他の言語を学習するのはやさしい	3.8	0.88	3.4	0.79	3.5	1.37
他の人と日本語を話すのは恥ずかしい	3.2	1.07	3.6	0.95	2.9	1.15
私には外国語学習の特別な能力がある	3.1	1.09	2.9	0.83	3.4	1.01
自分の進歩について教師と話すことは恥ずかしい	3.0	1.06	3.0	1.09	2.9	1.21
数学や科学が得意な人は外国語学習が得意ではない	1.8	0.75	1.8	0.73	2.1	1.21

#### 4. 4 言語学習の本質

続いて、表5に「言語学習の本質」についての結果を示す。「日本語を話すためには日本文化についても理解する必要がある」(4.8、4.7、5.0)「外国語を学習することは他の理論的な科目を学習することとは異なる」(4.4、4.3、4.8)という項目には、学年によらず強く賛成している学習者が多い。

発音、語彙、文法、翻訳の方法の中では、正確な発音を最も重視し(4.8、4.7、4.9)ている。続いて、語彙の学習(3.0、3.7、3.9)、文法の学習(3.0、2.7、2.5)、翻訳の仕方の学習(2.3、2.0、2.4)という順番で重視している。語彙の学習を重視する傾向は、学年が上がるほど弱くなっている。対照的に、文法の学習を重視する傾向は、学年が上がるほど強くなっている。文法と翻訳の仕方の学習に関しては、否定寄りの反応が見られる。正確な発音を重視している一方で、「正しく言えるようになるまでは何も話してはいけない」という項目については、学年によらず強く反対しており(1.4、1.6、1.4)、積極的に話そうとする姿勢を持っていることも伺える。

学年により傾向に違いが見られた項目に、「初級の段階で日本語の誤用が許されるとしたら後で日本語を正確に話すことが難しくなる」(2.3、2.7、3.7)がある。この項目については、学年が上がるにしたがって賛成する割合が減っている。このことから、初級の段

階では間違いを犯してはいても、学習が進むにつれて日本語の実力が付いていることを実感していることが伺える。「私は日本語を、他の科目と同じ方法で勉強している」という項目は、3年生、2年生と1年生の間で若干の傾向の違いが見られる(2.4、2.2、2.9)。

表5. 「言語学習の本質」についての結果

	3年生		2年生		1年生	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
日本語を話すためには日本文化についても理解する必要がある	4.8	0.37	4.7	0.46	5.0	0.21
正確な発音で日本語を話すことは重要である	4.8	0.37	4.7	0.70	4.9	0.47
外国語を学習することは他の理論的な科目を学習することとは異なる	4.4	0.70	4.3	0.95	4.8	0.43
言語の中にはやさしいものがある	4.4	0.76	4.4	0.58	4.0	1.00
日本語は日本で学習するのが一番いい	4.2	0.91	4.1	0.94	3.9	1.15
1つの外国語を話すのは理解するよりやさしい	3.9	1.05	3.7	1.08	4.0	1.17
日本語が何に必要かはっきり分かっている	3.7	0.89	3.3	0.98	4.5	0.74
日本語は話すより読んだり書いたりするほうが易しい	3.5	1.12	3.8	0.87	3.6	1.00
外国語学習の最も重要な部分は語彙を学習することだ	3.0	1.08	3.7	1.13	3.9	1.11
初級の段階で日本語の誤用が許されるとしたら後で日本語を正確に話すことが難くなる	2.3	1.11	2.7	1.16	3.7	1.49
外国語学習の最も重要な部分は文法の学習である	3.0	2.05	2.7	0.84	2.5	0.74
私は日本語を、他の科目と同じ方法で勉強している	2.4	0.96	2.2	0.66	2.9	1.36
日本語学習の最も重要な部分は母語からの翻訳の仕方を学ぶことである	2.3	0.90	2.0	0.79	2.4	1.00
正しく言えるようになるまでは何も話してはいけない	1.4	0.86	1.6	0.95	1.4	0.80

#### 4.5 言語学習の動機

最後に、表6に「言語学習の動機」についての結果を示す。学年によらず、「日本人の友達がほしい」と強く思っている学習者が多い(4.4、4.5、4.7)。日本語の学習を就職と結びつける傾向も、学年によらず強い(4.1、4.1、4.6)。ただし、学年が上がると、賛成

する割合が若干落ちている。学習の動機としては、日本語を、就職のためと考える割合の方が、日本人を理解するためと考える割合よりも高い。

表 6. 「言語学習の動機」についての結果

	3 年生		2 年生		1 年生	
	平 均	標準 偏差	平 均	標準 偏差	平 均	標準 偏差
日本人の友達がほしい	4.4	0.77	4.5	0.74	4.7	0.55
日本語を学習したらいい仕事の機会に恵まれるに違いない	4.1	0.76	4.1	0.94	4.6	0.59
日本人をより理解したいので日本語を勉強したい	3.5	1.16	3.6	1.05	3.5	1.41
私の国の人々は日本語を話すことは重要だと思っている	2.8	1.12	2.8	0.73	2.8	0.80

## 5. まとめと考察

最後に、上述の分析の結果をまとめ、指導上考えうることを示す。

まず、教師の役割に関してまとめる。学年によらず、学習者は、教師に対して、自身の日本語学習上で困難な点や進歩の状況などを指摘することを期待している。教師には、試験や日常の観察から明らかになった学習者の問題点や進歩の具合を、明確に学習者に伝える姿勢が求められる。

学習者は、「学習で成功するにはいい教師が必要だ」と考えている一方で、学年によらず、自律的に学習に取り組もうとする姿勢を持っていることも明らかになった。学習者自らが新しいことに挑戦し、問題に対する解決方法を探すことを好む傾向は、教師に手助けを求める傾向よりも強いことが明らかになった。この点は、板井（1999）が指摘した「教師依存的な結果」とは異なっている。これは、板井（1999）における調査対象が日本語副専攻の学習者であったのに対し、本研究が調査対象とした学習者が主専攻の学習者であり、自律的に日本語学習を進められる状況にあったためであると考えられる。ただし、学習者は自らの進歩の状況や誤用に関して、具体的に把握しているとは考えてはいない。そのために、上述のように、教師に、学習上の問題や困難な点、進歩の状況を指摘する役割を期待しているのだと考えられる。これらのことから、学習者の自律的な挑戦、問題解決を実現するためには、まず教師が誤用や問題点を適切に指摘することが必要だと考える。

学習者は、自分には外国語学習の才能があるとは考えていない。この点は、尹（2001）と共通した結果である。しかし、尹（2001）とは異なり、全ての人には外国語が話せるようになると思う傾向が見られる。また、他の人と日本語で会話することや、自身の日本語

について教師と相談することを恥ずかしいとは考えていない。これらの結果は、調査時点における日本語科のカリキュラムや学習活動と関わると考えられる。調査時点においては、本来は週に2コマ（1コマは50分）実施する予定で開設された会話の授業を、4コマに増やして実施するなど、口頭能力養成に力点を置いた指導を実施していた。また、会話の授業は、学習者同士による口頭練習を中心に進めていた。そのために学習者は、全ての人が外国語を話せるようになると考え、他人と日本語で話すことに強い抵抗を感じていないのだと考えられる。この結果と、学習の自律性に関する結果を考え合わせると、学習者同士による活動を積極的に導入することが、自身と実力を高めるのに有用であると考えられる。例えば、学習者同士によるロールプレイや、プロジェクトワークなどが考えられる。

発音、語彙、文法、翻訳の方法の学習について、全般的に見ると、学習者は、発音や語彙の学習に積極的に取り組もうとする姿勢を持っていることが明らかになった。発音を重視しながらも、誤用を恐れずに積極的に話そうとする姿勢は、先行研究と一致した結果であった。一方で、板井（1999）の結果とは異なり、文法や翻訳の方法の学習は重視されていなかった。この結果には、調査対象の在籍するコースやカリキュラムが関連していると考えられる。本研究が対象とした学習者は日本語を主専攻としている。そのため、特定の分野における表現や用語を表すための文法、翻訳を集中的に学習することはしていない。翻訳の学習は3年生から導入されるが、調査時点では本格的に開始されていなかった。このようなことが、上記の結果に現れたと考えられる。また、本研究の結果から、語彙の学習を重視する傾向は学年と反比例し、対照的に、文法の学習を重視する傾向は、学年と比例していることが明らかになった。この結果が表れた原因の1つには、カリキュラムの影響が考えられる。調査時点における日本語科では、1年生で初級の学習を終え、2、3年生において中級、上級の学習と試験対策を実施していた。1年生の段階では、初級の限られた文法項目に加えて語彙を増やすことで、日本語の表現を豊かにしようと努める学習観が表れたのだと考えられる。一方で、学年が上がり、試験対策が実施されるにつれ、漢字から意味や使い方が推測できることの多い語彙の学習よりも、文法の学習に困難を感じ、そちらに重点を置くべきだとする学習観を有するようになったと考えられる。このような学習観を利用した日本語指導をするのであれば、学年が低い間は多くの語彙を与え、学習が進むにつれて、文法の学習時間を増やすことが考えられる。

「初級の段階で日本語の誤用が許されるとしたら後で日本語を正確に話すことが難しくなる」という項目に対しては、1年生が賛成よりの反応を見せたのみで、学年が上がるにつれて否定的反応が強くなっていた。この原因の1つとして、学内外で実施されるスピーチ大会への積極的参加が考えられる。参加前には予選を実施し、学年全員に対して原稿執筆と暗記練習を課している。学習者はその過程において、誤用の訂正や発音指導を受ける。そして、訂正された文章を暗記して予選及び本選に臨んでいる。このような活動に参加す

ることにより、学習者は、初級の段階を終えた後も、正確な日本語を意識し練習する機会を得ている。このことが、上述の結果が表れた一因であろうと考える。

言語学習の動機に関する質問からは、学年によらず「日本人の友達がほしい」と強く思っていることが明らかになった。日本語母語話者との交流の機会に積極的に参加するよう促すことにより、学習動機を満ちし、日本語の能力を向上させる契機とすることができると考える。また、「日本語を学習したらいい仕事の機会に恵まれるに違いない」と考える傾向も学年によらず強い。この点は、先行研究による結果と概ね一致している。日本語学習を就職の機会と結び付けている場合、それ自体は学習を進める上で有利に作用すると考えられる。しかし、経済状況は時代によって変化する。この動機を失いかねない状況においては、日本語学習に対する動機を支える配慮が必要となろう。

以上、本研究で明らかになった中国人学習者の言語学習観に基づいて、指導の際に考えることを示した。指導の際には、学習者の言語学習観に配慮することが必要である。しかし、一方で、Horwitz (1987: 126) が述べているように、ビリーフは限られた知識や経験に基づいたものであることが多く、新たな経験を契機として変容しうる。各機関における教育目標から判断し、学習に有利に働く言語学習観を適切に利用し、不利に働きかねないものは変容を促すということも必要であろうと考える。変容を促すに当たっては、学習者と直接話し合うことや、カリキュラムを変更すること、課外活動への参加を検討することが、一つの方法であろうと考えられる。

今回調査したのは、言語学習に対する、学習者の意識の部分である。本研究で明らかにした意識が実際の行動や学習の成果とどのように結び付いているのか、さらに追及する必要がある。そうすることは、効果的な学習を促す方法を開発する一助になると考える。

## 謝辞

調査に快く協力してくださった中央民族大学外国語学院日語専業の蔡鳳林主任をはじめ、教員、学生の皆様に感謝の意を表したい。

## 注

1. ここでの「学院」「専業」は、それぞれ学部、学科に相当する。
2. アンケートは日本語により作成したのち、中国語に翻訳した。調査表は、本稿末尾に掲載する。
3. 結果は、3 学年の結果の平均値が高かった順に提示する。
4. 以下、本文中の（ ）内の数字は、その直後の表に示した 3、2、1 年生の結果の平均を表す。

## 参考文献

- 板井美佐 (1997) 「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS —上海復旦大学のアンケート調査より—」『筑波大学留学生センター日本語論集』12号：63-88
- 板井美佐 (1999) 「日本語学習についての中国人学習者の BELIEFS：香港城市大学のアンケート調査から分かったこと」『筑波大学留学生センター日本語論集』14号：163-179
- 尹松 (2001) 「日本語学習者のビリーフについての意識調査—中国首都師範大学の場合—」『日本語教育研究』第41号、財団法人言語文化研究所：115-129
- 木谷直之 (1998) 「極東ロシアの大学生の言語学習観について—海外日本語教師研修のための基礎データ作成を考える—」『日本語国際センター紀要』第8号、国際交流基金日本語センター  
[http://www.jpjf.go.jp/j/urawa/public/kiyou/ky08\\_08.html](http://www.jpjf.go.jp/j/urawa/public/kiyou/ky08_08.html) (2008年10月10日)
- 独立行政法人 国際交流基金 (2003) 『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査2003』、独立行政法人国際交流基金、凡人社
- Elaine K. Horwitz (1987) “Surveying Student Beliefs About Language Learning”, in Anita Wenden & Joan Rubin. (eds.) *Learner Strategies in Language Learning*., Prentice hall:119-132
- Sara Cotterall (1995) “Readiness for Autonomy:Investigating Learner Beliefs”. *System*, Vol.23, No.2:195-205

## 〔資料〕本研究において使用した調査表

这份调查表是想要了解大家对学习日语的想法。这项调查和您的成绩、老师与学校的评价没有关系。请按照您平常的想法填写。在使用这些数据进行研究时,不会公开您的姓名等等。多谢各位合作。

1-1 您的姓名\_\_\_\_\_

1-2 您是 ( 男 / 女 ) 的。

1-3 您的专业 / 年级\_\_\_\_\_

1-4 您的母语是 ( 汉语 (包括方言)·朝鲜语·蒙语·其他 ( ) ) (请选出最符合的一项)

2-1 您进大学之前学过的外语是 (英语·日语·其他 ( )·没学过) (可复选)

2-2 若您进大学之前学过任何外语的话,各学习了多长时间? \_\_\_\_\_ 年



3 请您逐条阅读，并在作答纸上填下 1～5 中任一数字。这 5 项回答无关对错，请您仔细考虑后从中选出一个最符合自己想法的选项。

	非常 赞成	稍稍 赞成	既不赞成 也不反对	稍稍 反对	非常 反对
1 有些语言较其它语言易学。	5	4	3	2	1
2 我想结识日本朋友。	5	4	3	2	1
3 所有的人都能学会说一门外语。	5	4	3	2	1
4 我喜欢自己挑战新的事物。	5	4	3	2	1
5 我们国家的人擅长学习外语。	5	4	3	2	1
6 为了成功地学习，我需要一位很好的老师。	5	4	3	2	1
7 学习外语，小孩比大人容易。	5	4	3	2	1
8 为了更加了解日本人，我想学习日语。	5	4	3	2	1
9 学习一门外语最重要的部分是学习词汇。	5	4	3	2	1
10 我希望老师能主动帮助我。	5	4	3	2	1
11 对已经掌握一门外语的人来说，要学习其他外语比较容易。	5	4	3	2	1
12 我喜欢自己找寻解决问题的方法。	5	4	3	2	1
13 我们国家的人感到说日语很重要。	5	4	3	2	1
14 我希望老师能告诉我学习上的困难点是什么。	5	4	3	2	1
15 我很清楚我为了什么而需要日语。	5	4	3	2	1
16 学习外语与学习其他理论性学科不同。	5	4	3	2	1
17 我通常会知道自己想要加强日语的那个部分。	5	4	3	2	1
18 说一门外语比理解一门外语容易。	5	4	3	2	1
19 我具有学习外语的天赋。	5	4	3	2	1
20 我希望老师能告诉我应该怎么学习。	5	4	3	2	1
21 日语最好是在日本学习。	5	4	3	2	1
22 我学习日语的方法与学习其他的科目时一样。	5	4	3	2	1
23 如果我日语学得好，就会有比较多的机会找到好工作。	5	4	3	2	1
24 当我犯了日语错误的时候，我会察觉到。	5	4	3	2	1
25 我了解对老师来说给我们定期测验是有用的。	5	4	3	2	1
26 为了说日语有必要了解日本的文化。	5	4	3	2	1
27 我需要老师告诉我现在进步得如何。	5	4	3	2	1
28 跟老师谈有关我的进步我感到害羞。	5	4	3	2	1
29 我希望老师为我设定学习的目标。	5	4	3	2	1
30 有些人具有学习外语的天赋。	5	4	3	2	1
31 我经常检查自己写的东西有没有错误。	5	4	3	2	1
32 学习外语最重要的部分是学习语法。	5	4	3	2	1
33 说日语时发音正确，是很重要的。	5	4	3	2	1
34 跟别人说日语时我感到很没有自信。	5	4	3	2	1
35 日语读和写比说和理解容易。	5	4	3	2	1

	非常 赞成	稍稍 赞成	既不赞成 也不反对	稍稍 反对	非常 反对
36 我有自己的方法去测试自己学了多少。	5	4	3	2	1
37 老师应该督促我努力。	5	4	3	2	1
38 我认为如果允许初学者出现日语错误, 那么他们以后就很难把日语说得正确了。	5	4	3	2	1
39 我知道怎么样才能学好语言。	5	4	3	2	1
40 擅长数学、科学的人不擅长学习外语。	5	4	3	2	1
41 学习外语最重要的部分是学习如何把母语翻译成日语。	5	4	3	2	1
42 我希望老师能告诉我应该花多长时间在课堂活动上。	5	4	3	2	1
43 没有老师告诉我进步的状况, 我通常自己会知道。	5	4	3	2	1
44 老师应该每次都要说明为什么我们在课堂上做某活动。	5	4	3	2	1
45 在能说出正确的日语之前不应该开口说日语。	5	4	3	2	1